

議員提出議案第20号

サンフランシスコ市における慰安婦像設置について再検討を求める決議案

本案を別紙のとおり提出する。

平成29年5月26日

大阪市会議長 木下 誠 様

提出者

大内啓治	辻 淳子	広田和美	出雲輝	英亮
今井アツシ	飯田哲史	上田智隆	高見山	輝人
岡崎太	ホンダリエ	不破忠幸	杉山谷	幹庄
改発康秀	美延映夫	東貴之	角谷野	一治
井戸正利	片山一步	田辺信広	丹市位	壮謙
大橋一隆	杉村幸太郎	伊藤良夏	市奥野	俊和
守島正勝	藤田あきら	竹下隆え	藤岡寛	
徳田勝希	金子恵美	佐々木りえ		
宮脇希	岡田妥知			

(別紙)

サンフランシスコ市における慰安婦像設置について再検討を求める決議

サンフランシスコ市芸術委員会において、慰安婦正義連合からサンフランシスコ市に寄贈予定の慰安婦像のデザインが2017年1月9日に了承されるとともに、1月18日には芸術委員会のビジュアルアート委員会において、碑文についても2点修正の後、全員一致で承認された。

慰安婦問題に関しては、2015年12月に日韓両政府において、日本が多数の女性の名誉と尊厳を傷つけたとして責任を表明し、この問題を最終的かつ不可逆的に解決すること、そして今後国際社会において互いに非難・批判することを控えることで合意をしたところである。

サンフランシスコ市における慰安婦像及び碑文の設置の動きは、本市にとってこの合意の精神を傷つけるものであると言わざるを得ず、姉妹都市の議会として看過できるものではない。

過去の歴史的事実を直視し、普遍的な価値を持つ女性の尊厳と人権が戦場においても守られる世界を目指すための活動は大いに取り組むべきである。

現行の計画のまま慰安婦像が公共の公園に設置されることになれば、日本人及び日系人が多く住むサンフランシスコ市にとってもコミュニティー分断の原因にもなりかねず、将来的な両市の交流、日米関係にも悪影響を及ぼすのではないかと懸念される。

サンフランシスコ市との友好の歴史は1957年に姉妹都市提携を結んで以来、60年の長きにわたり、両市代表団の相互訪問など交流を深めてきた。

直近では、平成27年10月に友好都市提携特別展を大阪市役所にて開催、平成28年7月にはサンフランシスコ高校生アンバサダーが来阪され、また、平成28年8月には、市長が世界のイノベーションをけん引するシリコンバレーを訪問し、サンフランシスコ市との連携強化を図るなど、着実な相互交流によって絆を深めてきた経緯がある。

姉妹都市提携60周年を迎える記念すべき本年を契機に、議会としても将来にわたってさらに良好な信頼関係を構築していきたいと切に願うところである。

よって本市会は、サンフランシスコ市が、市の意思として公共の場所に現計画のまま慰安婦像及び碑を設置することについて、再検討されるよう強く求めるものである。

以上、決議する。

平成29年5月 日

大阪市会